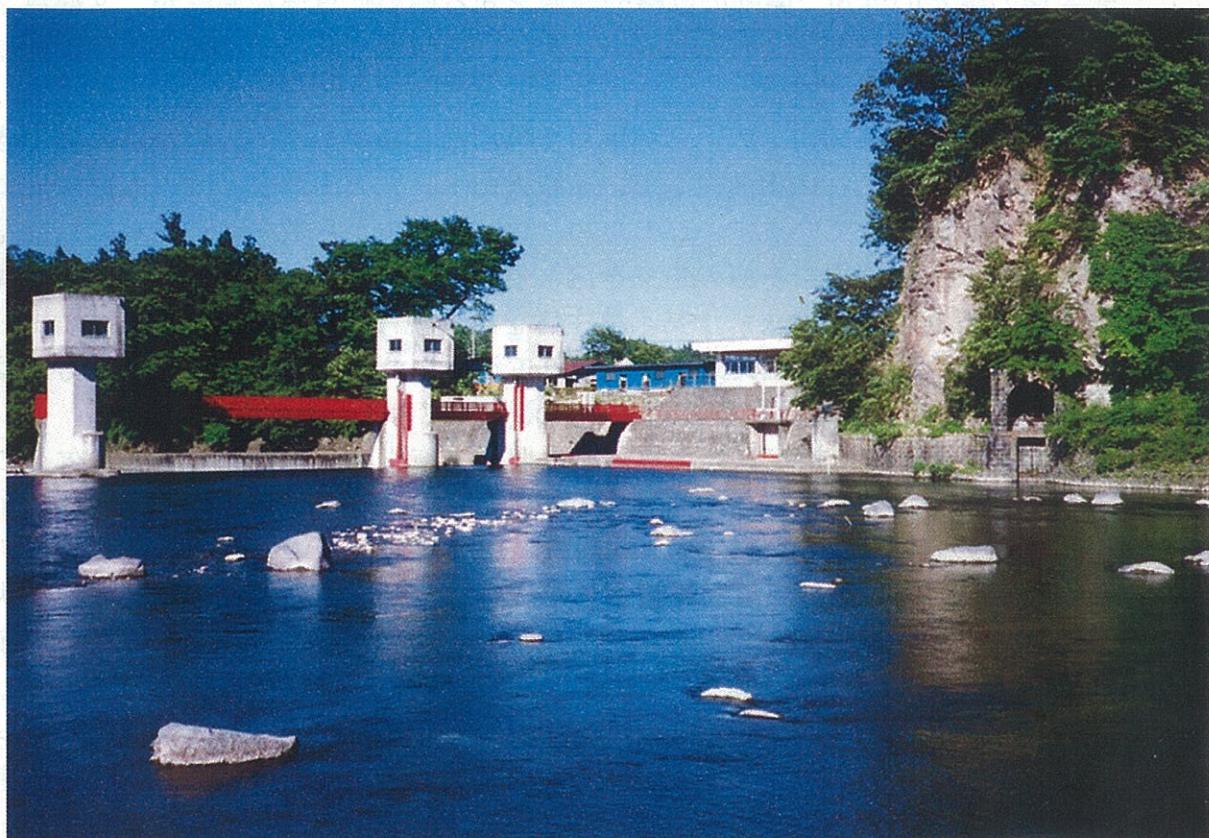


那須疏水旧取水施設

— 国重要文化財指定記念 —



那須野ヶ原土地改良区連合

(水土里ネット那須野ヶ原)

那須疏水土地改良区

(水土里ネット那須疏水)

水土里ネットとは、土地改良区等の愛称です。

那須野ヶ原総合開発事業により整備された用水を総称する那須野ヶ原用水の業務運営につきましては、平素から格段のご高配を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、那須野ヶ原用水の中心的役割を担った那須疏水旧取水施設が、文化財保護法の規定に基づき、近代化遺産では栃木県内初の国重要文化財に指定されました。那須疏水の開削から120有余年を経過した今日、那須野ヶ原地域の発展が那須疏水開削なくしてあり得なかつたことに対し、関係各位が改めて認知・確認するための良い契機となつたことと存じます。

また、先人達の数々の英知、開削の動機や経過を知る極めて重要な施設が、文部科学省によって安全かつ確実に保護されるに至り、次代に継承するための確固たる保障を得ることになりました。誠に喜ばしいことであります。

那須野ヶ原扇状地は、那珂川・熊川・蛇尾川・筍川などの河川が、山地から多量の砂礫を運び出して堆積し、これに相前後して、赤城火山・日光火山などの噴火の影響により、火山灰（赤土）が覆っています。このため、数メートルから数十メートルにも及んで砂礫層が厚く堆積し、那須野ヶ原の中央を流れる熊川・蛇尾川は、ふだんは水の流れない伏流河川として有名であります。長年移住者を拒み続けた所以でございます。

明治初期、明治政府による殖産興業に誘発されて進められた当地の開墾事業の労苦は想像を絶し、『水との闘い』に尽きるとも言い伝えられてきました。

この度、国的重要文化財に指定された那須疏水旧取水施設は、その開墾事業に欠くことの出来ない水を確保するために、印南丈作・矢板武らの200日を超える運河及びかんがい用水大水路の請願運動を経た辛苦の結晶であります。

一方、那須疏水開削後もなお広漠たる雑木林が残され、既成田の用水不足も深刻な状況にありました。この状況に鑑みて、昭和初期から30年代にかけて国・県による幾多の調査が進められ、昭和42年には国営那須野原総合農地開発事業が着工致しました。平成6年度に完了したこの事業は、那珂川上流部に有効貯水量約2,100万tの深山ダムを築造、地区内に約100万tの赤田・戸田調整池を新設して水源を確保するほか、板室ダムの新設、西岩崎頭首工、新・旧木ノ俣頭首工、暮沼頭首工の移設改修並びに330kmを超える幹・支線用水路の更新整備を行い、環境と調和しつつ豊かな大地を創生しました。他に例がない歴史的大事業と言えましょう。

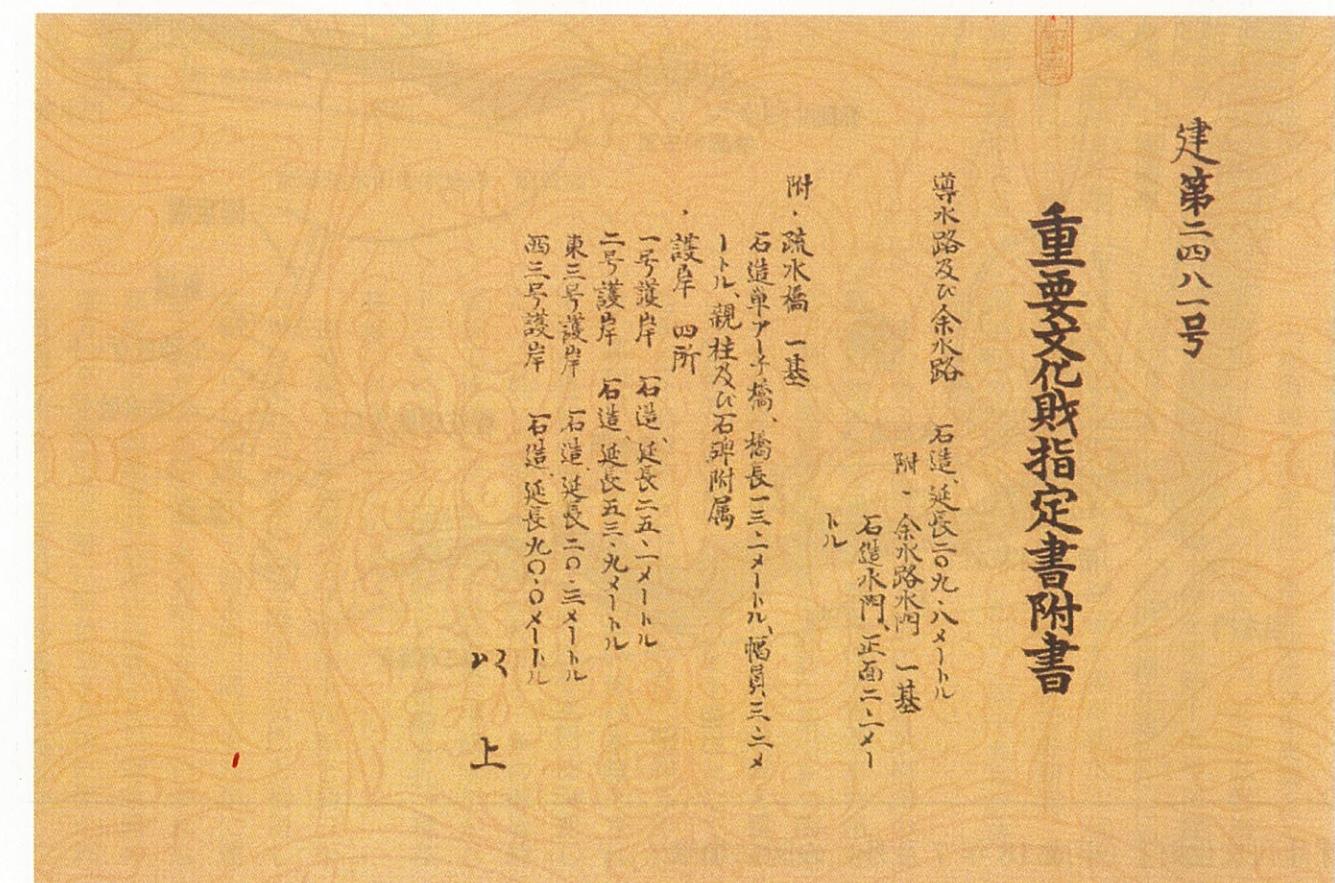
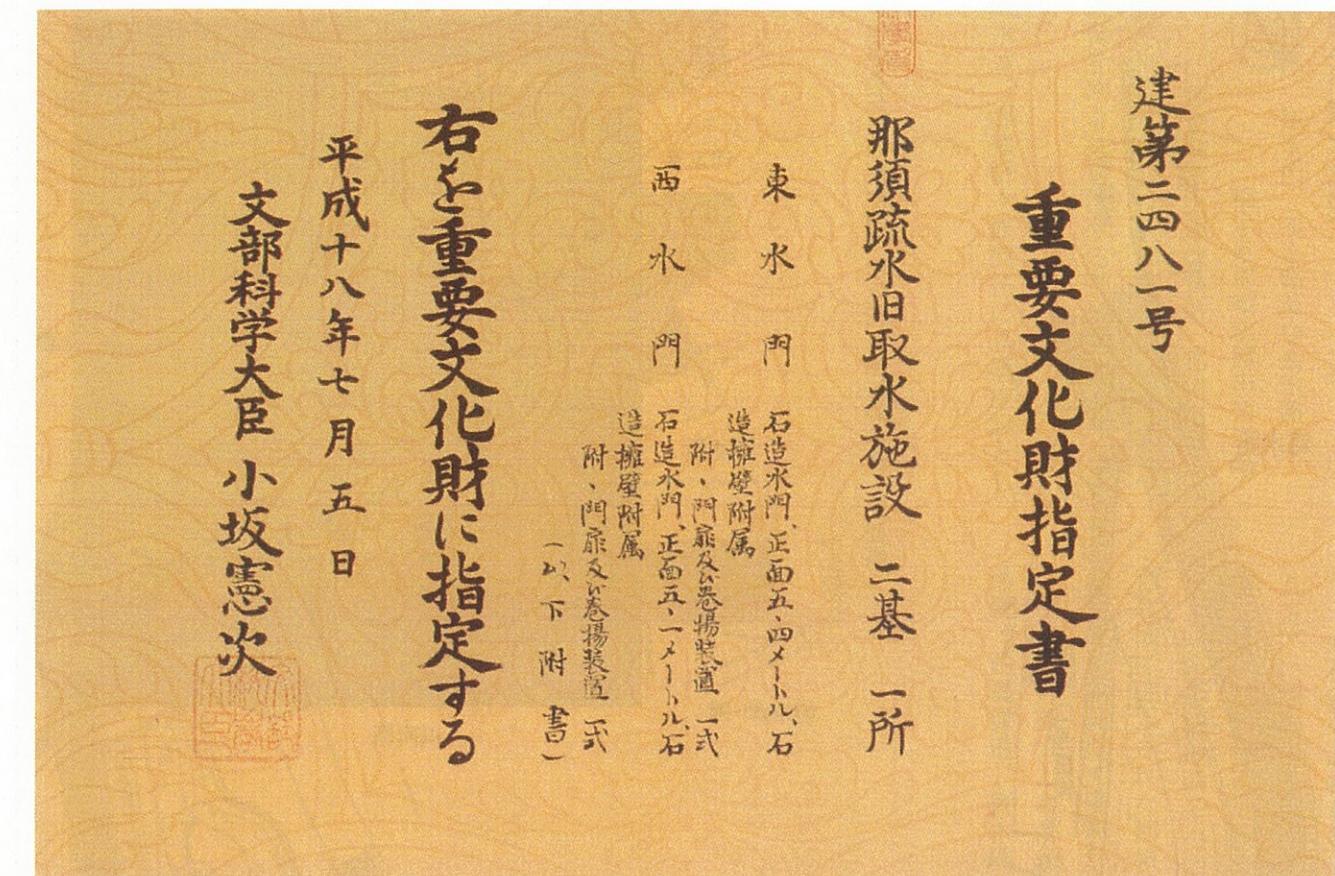
食糧と、人間をはじめとする生物の生命維持に不可欠な水危機の世紀と言われる昨今、何代にも亘る先覚者らの労苦を経て、今日、最大取水量毎秒約15tもの貴重な水を得ることができました。今後も、皆様方のご支援のもと、那須野ヶ原4万ヘクタールの健全な水循環に努め、大事に、大事に育み、しっかりと次代に継承する所存でございます。

末尾に、国重要文化財指定に至る調査・諸処の手続き等にご尽力・ご協力いただきました関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

那須野ヶ原土地改良区連合
那須疏水土地改良区
理事長 渡辺 喜美

1 那須疏水旧取水施設の概要

(1) 国重要文化財指定書



建第二四八一號

重要文化財指定書

建第二四八一號

重要文化財指定書附書

那須疏水旧取水施設

二基、一所

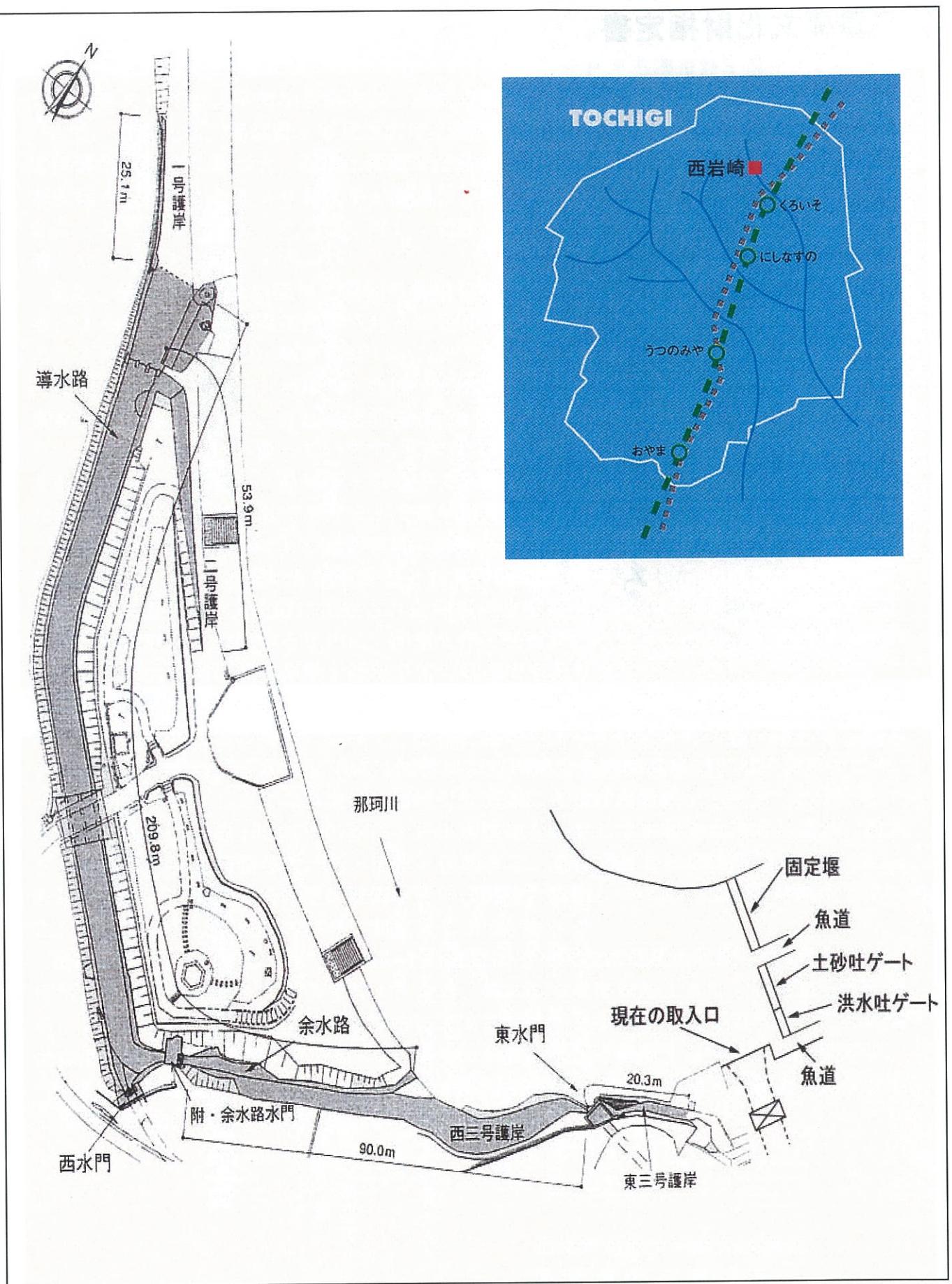
て、内務省の直轄事業により明治十八年（一八八五）に開削された。明治九年より内務省が実施した官営開墾適地調査において、安積原野に次ぐ開墾候補地の一つに選定され、同十一年に官有地に編入された那須野ヶ原では、士族授産政策を背景として開墾が進められ、翌年より地元有力者の設立した那須開墾社を筆頭に、三島通庸、西郷従道、青木周蔵等の政府高官による

大農場経営が行われた。

『那須疏水百年史』（那須疏水百年史編さん委員会編、一九八五年）によると、その基盤施設として栃木県が飲用水路を明治十五年に建設するが、竣工直後より破損を繰り返したため、同十八年に内務省土木局疏水課が新たに疏水を建設した。この施設は、竣工までの期間、那須原疏水と命名されていたが、同十九年以降、那須疏水と称される。

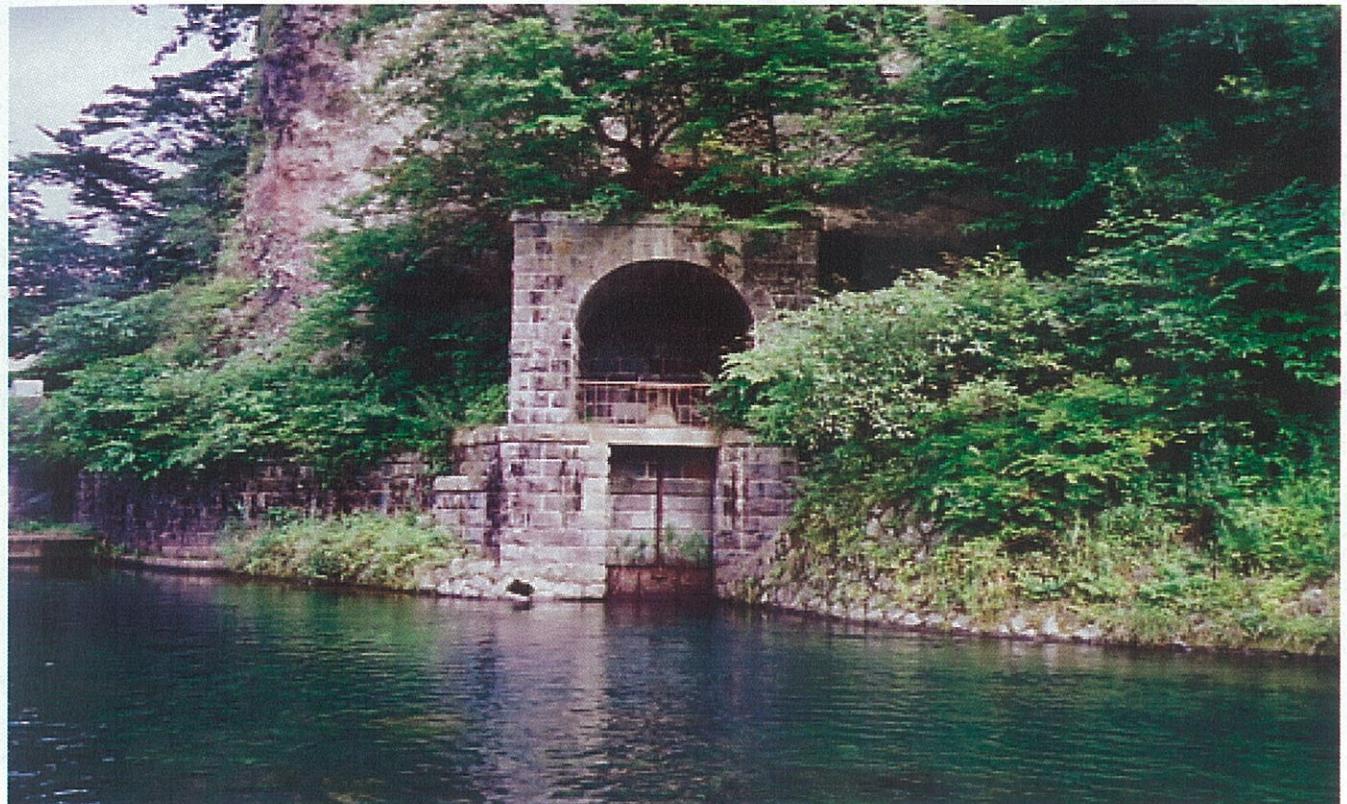
その後、取水隧道入口付近における河床の変動や岩盤崩落を受け、那須疏水普通水利組合は、栃木県技師井上二郎の設計に基づき、明治三十八年にその西方に新たに取水施設を建設し、翌年には当初の取水隧道を予備用として利用するため坑門を石造に改めた。昭和三年には、那珂川の河床の変動に伴い再び本線とされていた当初の取水隧道の坑内を水門に改めた。これらの構造物は、昭和五十一年の西岩崎頭首工建設に伴い廃止された後、平成十年から十三年にかけて公園施設として整備され、現在良好に保存されている。

(2) 那須疏水旧取水施設配置図

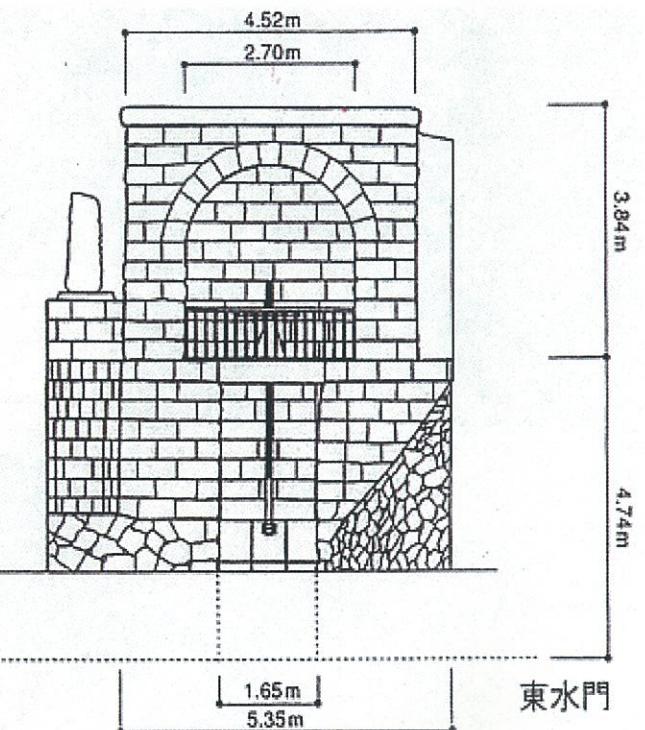


*第一次・第三次取入口

(4) 東水門



[平成 18 年 8 月撮影]



東水門正面図

[『月刊文化財』平成 18 年 7 月号]

東水門(第一次・第三次取入口)と三号護岸(東・西)

- ◇ 第一次取入口は、明治 18 年 (1885) 那須疏水の開通に合わせて開設された。
- ◇ しかし開設当時の写真や絵は残ってなく、どういうものかよくわかっていない。
- ◇ 明治 19 年 (1886) の平面図を見ると、石組みのトンネルの入口があつただけで、これと言った施設はなかつたと推定される。
- ◇ 明治 38 年 (1905)、取入口が上流部に変更された(第二次取入口)。
- ◇ 使用されなくなった第一次取入口は、翌明治 39 年 (1906)、予備の水門として整備(石組み水門設置)された。
- ◇ 大正 4 年 (1915)、取入口は、旧(第一次)取入口に戻つた(第三次取入口)。
- ◇ 昭和 3 年 (1928)、この取入口は大々的に改修された。具体的には石組みの水門を増設し、水量を調整する鉄扉手動巻上機が設置された。さらに上部には、巻上機のハンドルや操作する人を守るために、アーチの石組みが設置された。
- ◇ 第三次取入口は、昭和 50 年 (1975) 頃まで使用された。

び巻揚装置に関する見積書と添付図面が残るが、現在撤去されている。

明治期の大規模な灌漑水路施設としては、明治用水(愛知県、明治十三年)、安積疏水(福島県、明治十五年)、琵琶湖疏水(京都府、明治二十三年)、淡河疏水(兵庫県、明治二十四年)等が知られる。那須疏水は、昭和四十二年から平成七年にかけて実施された那須野ヶ原総合開発事業の一環として大規模な改修工事が行われ、小規模な隧道を除けば、旧態を現在も保持するのは旧取水施設のみである。なお、那須野ヶ原開拓に関連する遺構としては、旧青木家那須別邸(明治二十一年、重要文化財)、旧山縣有朋那須別邸(明治四十二年、栃木県指定有形文化財)、旧大山家那須別邸(明治末期、栃木県指定有形文化財)等がある。

那須疏水旧取水施設は、水門及び導水路等が旧態を良好に保持して残り、近代における大規模水利施設の取水システムの構成を知るうえで価値が高い。明治政府の殖産興業政策を背景として開拓が進められた那須野ヶ原の基盤施設であり、明治期有数の規模を誇る那須疏水の代表的遺構として重要である。

また、東水門の約一九〇メートル東方の水路には同年に疏水橋が架けられ、その南橋詰には疏水橋建設の経緯を陰刻した「疏水橋之記」の石碑と、橋名および建設年月が陰刻された親柱が残る。これらを附指定とする。

東水門は、石造で、坑門の上方にかけた角材の上に、鉄製の門扉巻揚装置を設け、さらに半円アーチ形開口部を川に向かって開くほぼ台形平面の上屋を設けたもので、正面五・四メートル、高さ八・六メートルとし、乱積の基礎部分を除き全

体を切石の布積で築く。なお、「大正三年ヨリ工事請負並設計書」(那須疏水土地改良区所蔵)に、那須鉄工所が大正十五年(一九二六)三月十二日に作成した、門扉および巻揚装置に関する見積書と添付図面が残る。この門扉および巻揚装置を附指定とする。

西水門は、石造で、坑門の上方にかけた角材の上に、鉄製の門扉巻揚装置を設けたもので、正面五・一メートル、高さ三・九メートルとし、導水路に対しやや斜めに構える。背後には長方形の石碑を中央に嵌め込んだ擁壁を布積で築く。坑門を水門に改めた年代は詳らかではないが、設置された門扉および巻揚装置は東水門のものと類似していることから昭和初期と推定され、これを附指定とする。

導水路及び余水路は、巨大な自然石を利用して築かれた角落水門から、くの字形に屈曲して西水門に至る導水路と、西水門の手前からさらにし字形に屈曲し、再び那珂川に至る余水路となり、全体で延長二〇九・八メートルとする。導水路は、敷幅約六メートル、壁側法勾配約五分とした台形断面の石造構造物で、側壁を谷積、底版を石敷とする。余水路は、底版を石敷とし、西水門の東方約一〇メートルの地点に水量調節および排砂機能を有する水門を設ける。この水門を導水路及び余水路の附指定とする。

東水門と同様に、前掲『大正三年ヨリ工事請負並設計書』に那須鉄工所が作成した門扉およ

参考文献
『栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書』
栃木県教育委員会、二〇〇〇三年



アーチの石組みと鉄扉手動巻上機のハンドル

[平成 14 年 10 月撮影]



石組み中央部にはめ込まれた記念碑

[平成 14 年 11 月撮影]



明治 39 年(1906)頃の東水門(第一次取入口)

[工藤敏彦氏提供]

(5) 西水門



導水路と西水門

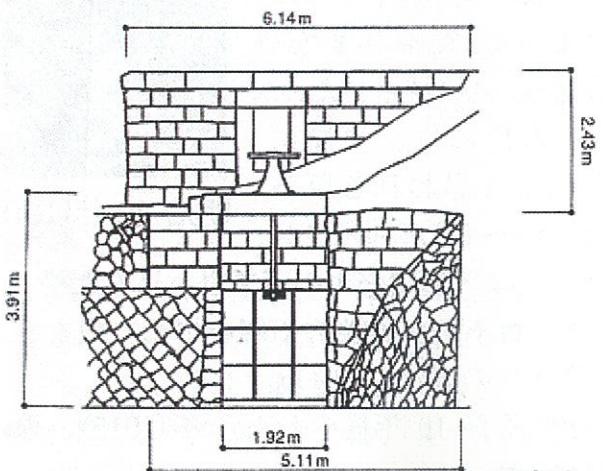
[平成 13 年 6 月撮影]



西水門

[平成 18 年 10 月撮影]

西水門は、第二次取入口で取水された水が導水路を経て隧道(トンネル)に入る所にあり、明治 38 年(1905)に原型が造られた。『栃木県の近代化遺産』では「岩崎第二隧道入口」(仮称)と記しているが、重要文化財指定にあたり、「西水門」と名づけられた。



西水門

西水門正面図

[『月刊文化財』平成 18 年 7 月号]

(6) 第二次取入口



第二次取入口
[平成 18 年 4 月撮影]

◇ 第二次取入口は、明治 38 年(1905)に、第一次取入口から 170m ほど上流部に設置された。

◇ 第一次取入口が川の流れの関係で不都合になつたことによる。

◇ 約 157m の導水路と、約 159m の隧道(トンネル)によって、従来の隧道(岩崎隧道)に接続された。

◇ 取入口には、河原にあったと思われる巨石(長径 6~7m)が利用され、

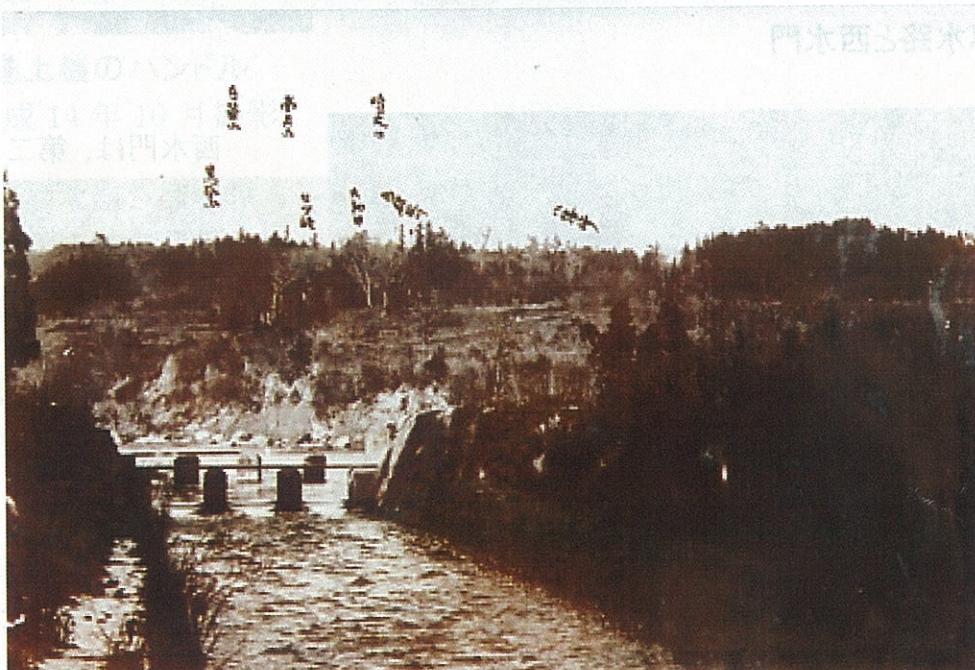
巨石には水量調整用の板をさし込んだ溝と、作業用の階段が刻まれている。

◇ また巨石の反対側の石組みにも、板をさし込んだ溝が刻まれている。

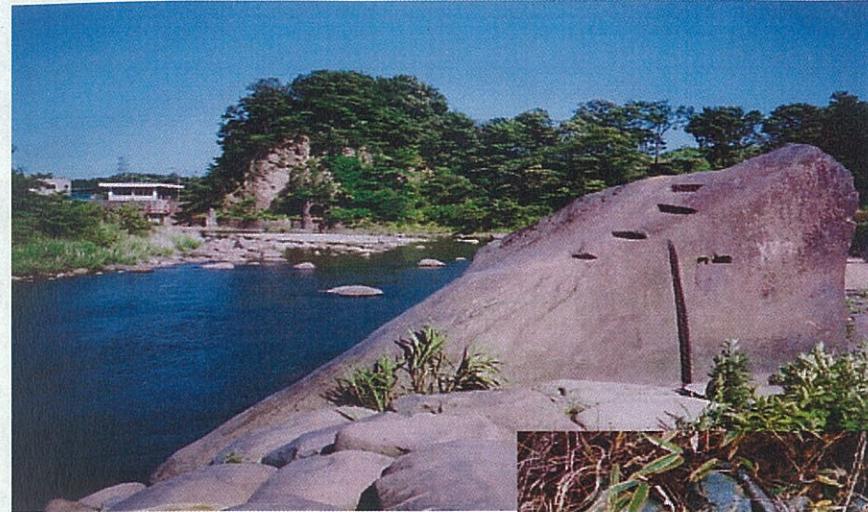
◇ 取入口の幅は、約 11m。

◇ ところが 10 年後の大正 4 年(1915)、取水が不都合になったため、旧取入口(第一次取入口)に戻された。

◇ なお、昭和 50 年(1975)頃~51 年 4 月、新取入口(頭首工)工事に伴い、短期間再利用された。



明治 39 年(1906)頃の第二次取入口
[工藤敏彦氏提供]



第二次取入口に利用された巨石
[平成 14 年 6 月撮影]



巨石の反対側にある石組みの溝
[平成 14 年 2 月撮影]

(7) 導水路と水量調整施設と余水路



◎水量調整施設

第二次取入口および数十m下流部には、水量調整並びに土砂流入防止の役割を持つ施設が設置されたが、取入口部分の施設は跡形がなく、復元されなかった。

数十m下流の施設は、遺構がある程度残っていたので、欠落部分に新しい石を設置して復元された。

◎余水路

余水路とは、余分な水或いは土砂を排出する水路である。第二次取入口～西水門の間には、2 つの余水路が設けられた。

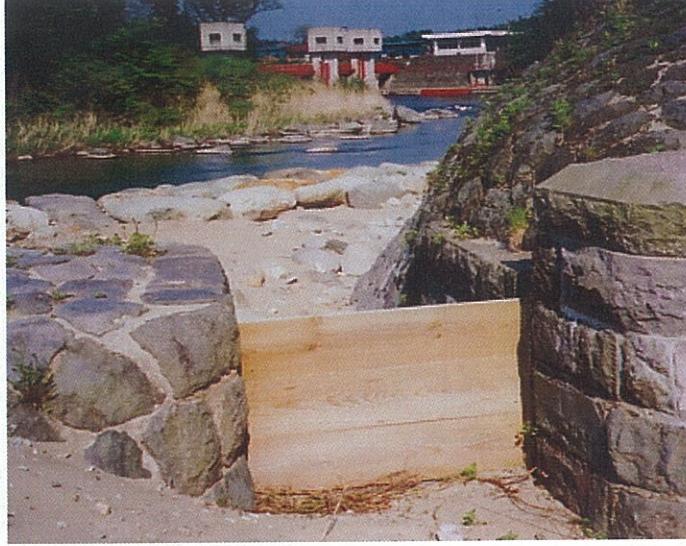
『栃木県の近代化遺産』では、「第一排水路」・「第二排水路」と記しているが、この冊子では「第一余水路」・「第二余水路」と記した。

第二次取入口すぐ下流部の堰堤

[平成 18 年 9 月撮影]



第二次取入口下流部の水量調整施設
〔平成 14 年 2 月撮影〕



第一余水路と二号護岸の一部
〔平成 15 年 5 月撮影〕



第二余水路に架かる橋の上流部
〔平成 14 年 11 月撮影〕



西水門近くの石垣に
はめ込まれた記念碑
〔平成 8 年 5 月撮影〕

◎導水路

導水路は、三方を石で組んだしっかりしたものである。

昭和 40 年代にはひどいヤブに覆われていたが、昭和 50 年(1975)頃～同 51 年 4 月には、那須野原総合農地開発事業に伴う頭首工(第四次取入口)工事にあたりこの水路が利用された。

この際、蛇籠で補強されたが、平成 12 年(2000)頃、公園整備の際に蛇籠が撤去され、明治 38 年(1905)当時の姿に戻された。



導水路
〔平成 18 年 9 月撮影〕



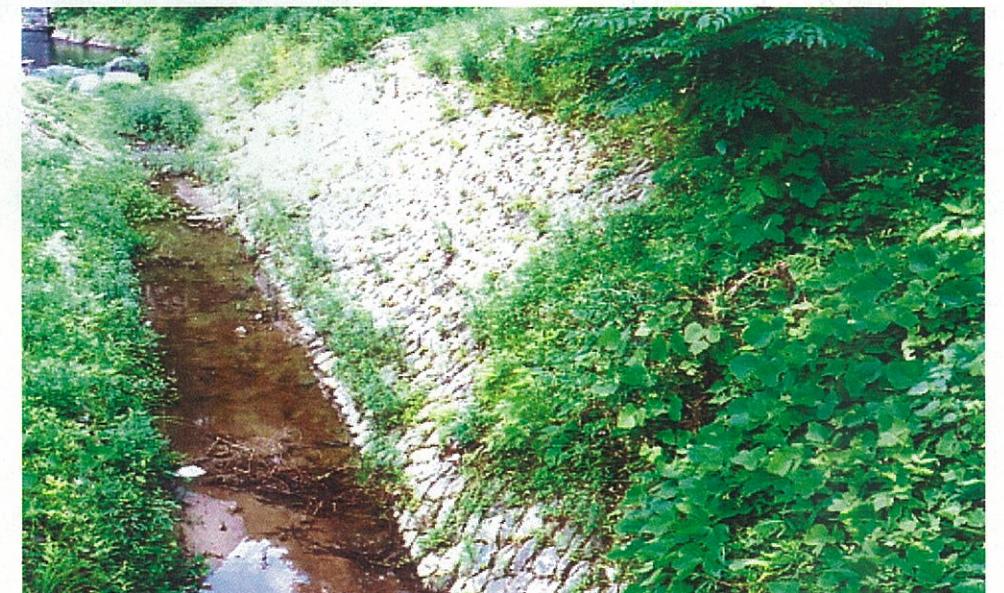
整備直後の導水路
〔平成 12 年 4 月撮影〕



同、管理用の階段
〔平成 14 年 11 月撮影〕



第二余水路に架かる橋に設けられた
水量調整施設の跡



第二余水路と西三号護岸の一部
〔平成 13 年 8 月撮影〕

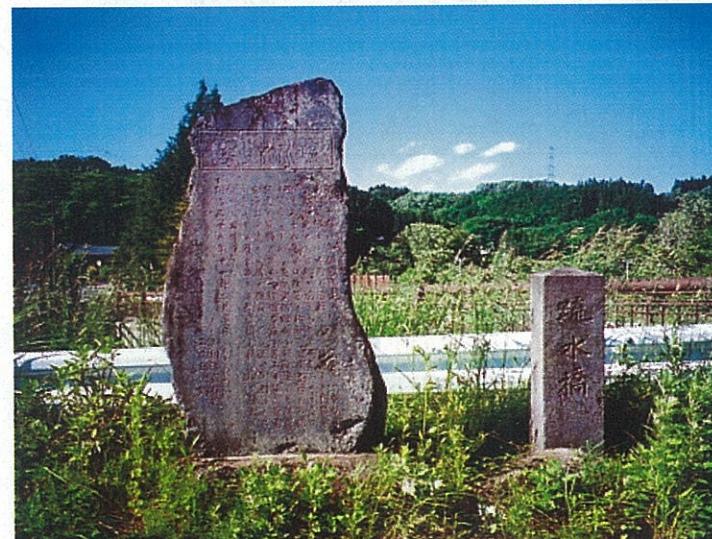
(8) 疏水橋



上流部から見た疏水橋

- 明治 38 年(1905)、那須疏水に架橋
- 東水門(第一次・三次取入口)から約 290m 下流にかかる石造単アーチ橋
- 幅 3.2m、長さ 13.1m

- ◇ 疏水橋は、西岩崎に通じる里道に那須疏水普通水利組合によって架橋された。
- ◇ 第二次取入口・導水路・とりつけ隧道開削にあわせて架橋されたもので、「めがね橋」とも呼ばれた。
- ◇ 後に、この橋を通る道は、横断道路(主要地方道矢板那須線)の一部となり、いつの頃かコンクリートで拡幅された。
- ◇ 平成 7 年(1995)、疏水橋に隣接して「そすい橋」がかけられたことにより、疏水橋は拡幅されたコンクリートの部分を撤去し、新たに欄干を設置して保存されるようになった。



「疏水橋之記」(左)と親柱

[平成 14 年 6 月撮影]

- ◇ 「疏水橋之記」は明治 38 年(1905)11 月に建立された。
- ◇ かつては数十 m 北西の墓地入口にあったが、平成 7 年(1995)頃、疏水橋の近くに移された。

以上、工藤氏以外の写真撮影：磯 忍

(9) 那須疏水略年表

年 (西暦)	主な二ヒ
明治 15(1882)	那須原飲用水路開通 (11. 15)
〃 18(1885)	那須疏水開通 (9. 15、本幹水路のみ)
〃 19(1886)	那須疏水の 4 本の分水路開通
〃〃(〃)	那須水組発足 (12. 16)
〃 20(1887)	第二分水晶川堀 (沼野田和～湯津上) 開通 (6. 15)
〃 21(1888)	第四分水西堀開通 (9. 14)
〃 34(1901)	那須疏水第四分水組合発足 (10. 28)
〃 36(1903)	那須疏水普通水利組合発足 (9. 7)
〃 38(1905)	取入口、200mほど上流に変更 (6)
大正 4(1915)	取入口を旧にもどす
昭和 3(1928)	取入口の施設を改修 (アーチの石組みをつくる)
〃 9(1934)	第一分水から取水する黒磯町上水道完成
〃 13(1938)	大洪水により那珂川の堰堤、蛇尾川近くの水路大被害
〃 26(1951)	青木地区の本幹水路を利用した小発電所完成
〃 27(1952)	那須疏水土地改良区発足 (3. 10)
〃 31(1956)	『那須疏水』(田島董著) 発刊
〃 32(1957)	疏水事務所及び記念碑 (那須疏水記) 完成
〃 34(1959)	第一分水沿いの羽田・佐野地区、水利権の大部分を手放す
〃 35(1960)	那須疏水土地改良区理事長に渡辺美智雄就任 (～平成 7)
〃 36(1961)	第二分水晶川地区、水利権を手放す
〃 42(1967)	国営那須野原開拓建設事業着手
〃 44(1969)	蛇尾川隧道 (蛇尾川暗渠水路) 改修完成 (3)
〃 45(1970)	亀山隧道 (亀山暗渠水路) 改修完成 (3)
〃〃(〃)	本幹二号水路開渠水路 (1355m) 改修完成 (3)
〃 46(1971)	熊川隧道 (熊川サイホン水路、80m) 改修完成 (3)
〃〃(〃)	本幹水路小結～青木間 (2410m) 改修完成 (3)
〃 47(1972)	本幹水路青木～洞島間 (4028m) 改修完成 (3)
〃 48(1973)	那須疏水水利権を国に返還
〃〃(〃)	本幹水路西岩崎第一号開渠 (230m) 改修完成 (3)
〃〃(〃)	本幹水路洞島～千本松間 (4820m) 改修完成 (3)
〃 50(1975)	本幹水路西岩崎第二号開渠 (131m) 改修完成 (3)
〃 51(1976)	取入口を数十 m 下流部に変更 (西岩崎頭首工、4. 24 竣工式)
〃 60(1985)	『那須疏水百年史』発刊
〃 61(1986)	事務所を新築移転 (4. 28、塩原町接骨木の赤田調整池わき)
平成 18(2006)	那須疏水を中核とする那須野ヶ原用水が「疏水百選」に認定される (2. 22)
〃〃(〃)	那須疏水旧取水施設が国の重要文化財に指定される (7. 5)

『那須疏水百年史』ほかにより作成

2 那須野ヶ原用水の構築

(1) 主な水利開削の歴史



慶長年間（1596～1615）に開削されたと言われる藪沼用水は、藪沼他4ヶ村の用水として開削され、以降、下流の村々の要請に応え水路が延長された。最終的に大田原城下まで延長され、大田原藩の厳しい統制下で管理されてきた。明治33年（1900）には大改修され、以降、水田かんがいにも利用されるようになった。

現在の藪沼頭首工と旧取水口（右側の穴）



明和2年（1765）頃に開削された旧木ノ俣用水も、穴沢（百村の枝村）の飲用水路として開削された。以降、下流の12ヶ村の飲用水として用水を延長し、生活用水として地域に貢献してきた。その後、水田開発の意欲とともに、用水の改修等が行われ、水田かんがいも可能となった。なお、戦後は高林地区の開拓団による新しい開拓地を潤す用水の重要な水源となった。

現在の旧木ノ俣頭首工



明治26年（1893）に水田開削を目的として、木ノ俣川に西俣川が合流する地点で、絶壁に数十mの隧道を掘り、以下木ノ俣川に沿って崖や河岸段丘に約4kmの水路を穿った。

昭和41年（1966）には、台風の影響で堆積したトンネル内の土砂搬出作業中に、地元の25名もの尊い命が犠牲となつた大事故が発生した。

現在の新木ノ俣頭首工

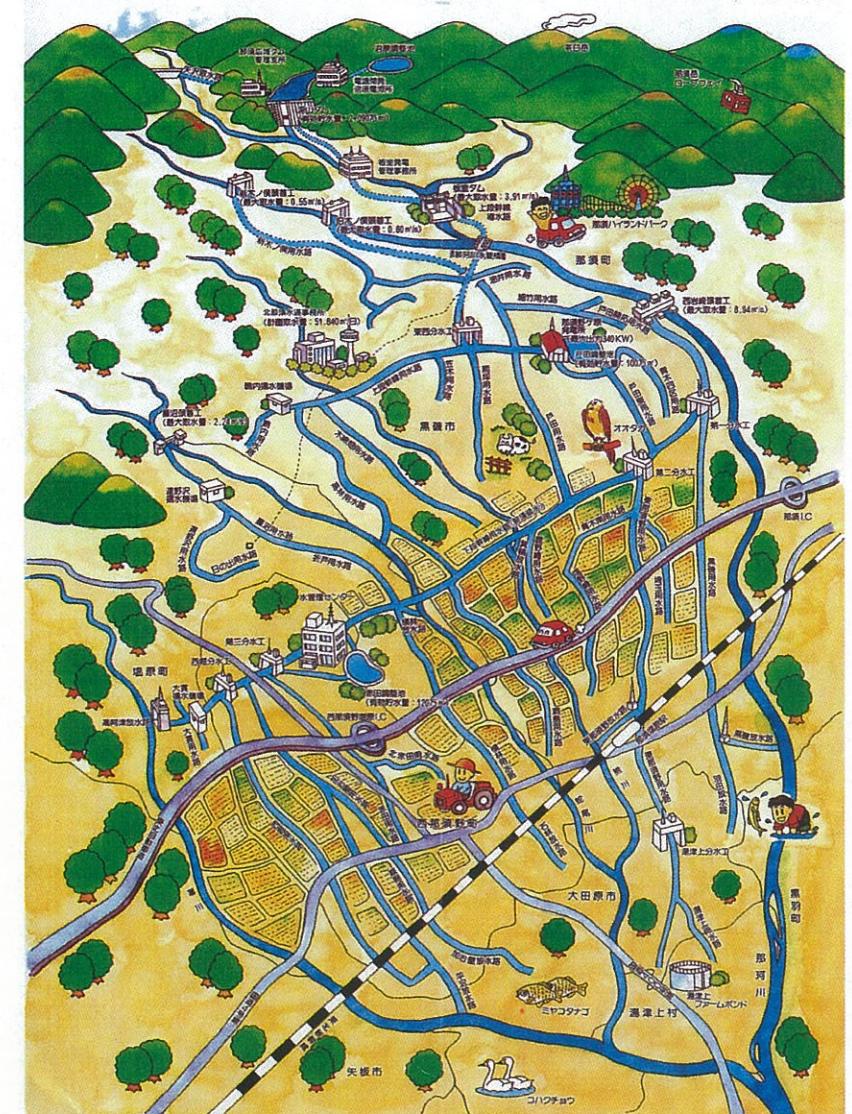
(2) 那須野ヶ原総合開発

那須野ヶ原用水マップ

那須疏水を初めとする水利開削によって、那須野ヶ原扇状地の扇頂部から扇央部にかけての水脈の原形が出来上がつた。さらに、より安定した用水を求めて多くの造修工事が行われた。昭和42年（1967）から平成7年（1995）3月にかけて実施された国営那須野原総合農地開発事業によって、深山ダムなどの水源確保と用水の統廃合・施設の造修により330kmを超える水路網が整備され、水田並びに畑へ安定したかんがいが行われるようになった。

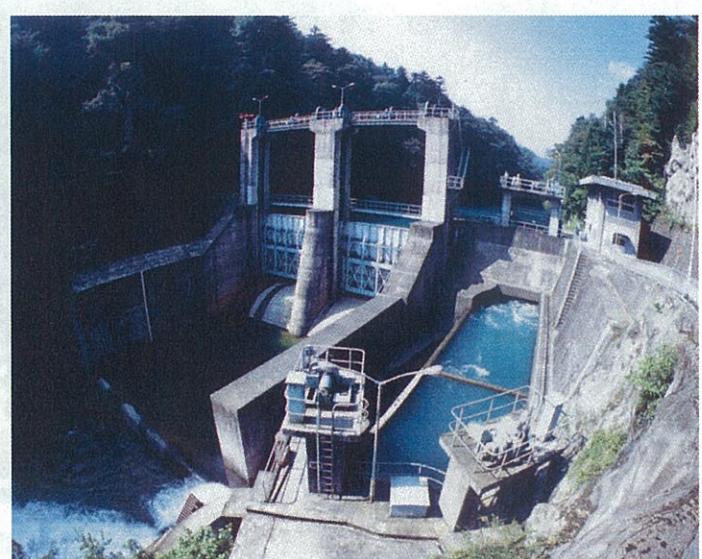
「那須野ヶ原用水」の誕生である。現在、この地域を潤すすべての水のコントロールは、那須野ヶ原総合開発水管理センターにて集中管理されている。

公平かつ効率的な水管理と適切な施設の維持管理は、那須野ヶ原土地改良区連合に委ねられた。



那須野ヶ原用水の主要水源である深山ダム（左下）と上段（高林）幹線への取水と那珂川への放水（西岩崎で取水）を行う板室ダム

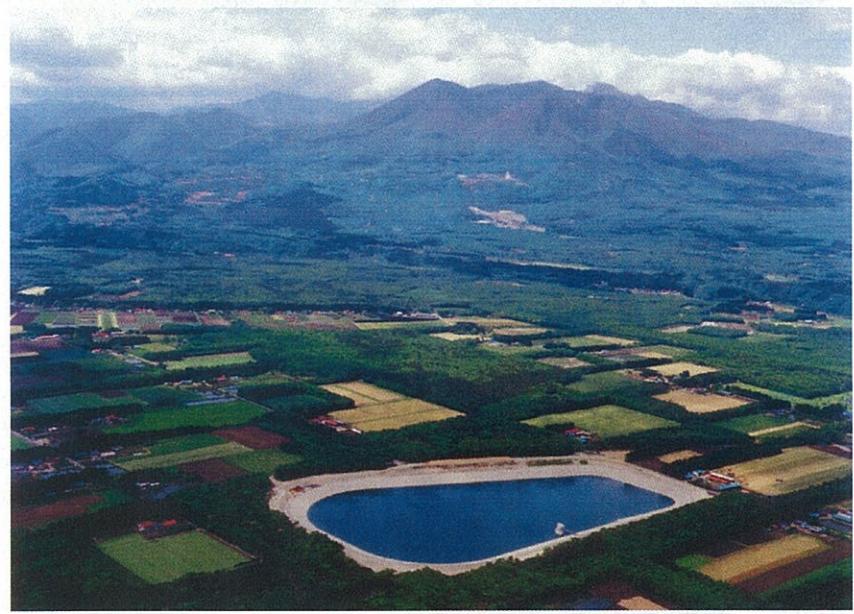
[昭和49年（1974）完成]





赤田調整池

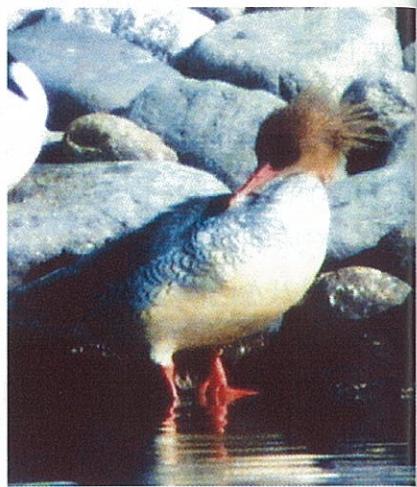
昭和 55 年（1980）完成



戸田調整池

平成 3 年（1991）完成

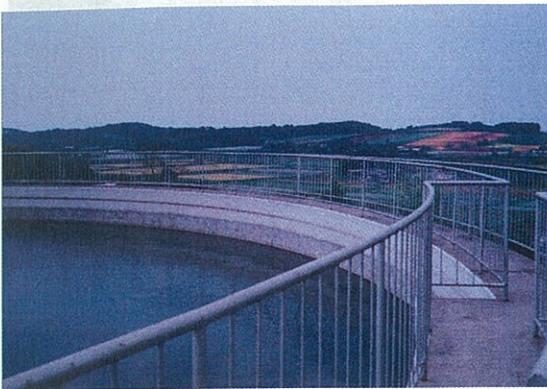
那須野ヶ原地域内の用排水調整を行う赤田調整池と戸田調整池
冬には渡り鳥も飛来し、野鳥観察に訪れる人も多い。



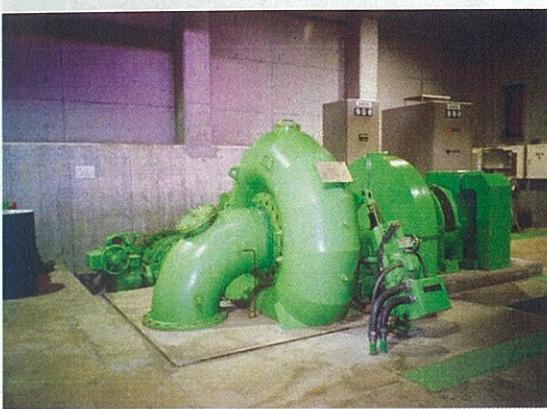
絶滅危惧種コウライアイサ
(赤田調整池)



シジュウカラガン
(戸田調整池)



湯津上ファームポンド



戸田調整池に併設された那須野ヶ原発電所



これら施設と長年の苦労と努力によって、那須野ヶ原扇状地の水循環の健全化が格段と向上した。扇中央部下流域では地下水涵養量が増加し、農業用水等への再利用が可能となり水田面積の拡大など、栃木県第1位にランクされる農村地域となった。

（3）那須野ヶ原用水の活用

那須野ヶ原用水は、農業用水だけでなく美しい農村景観形成や地下水涵養・地域排水排除・スポーツ振興など多くの多面的機能を有する施設として、地域貢献に寄与している。
いくつかの事例を紹介する。

【良好な景観形成】



ツツジが映える那須疏水(横林)



雪景色の那須疏水幹線(横林)



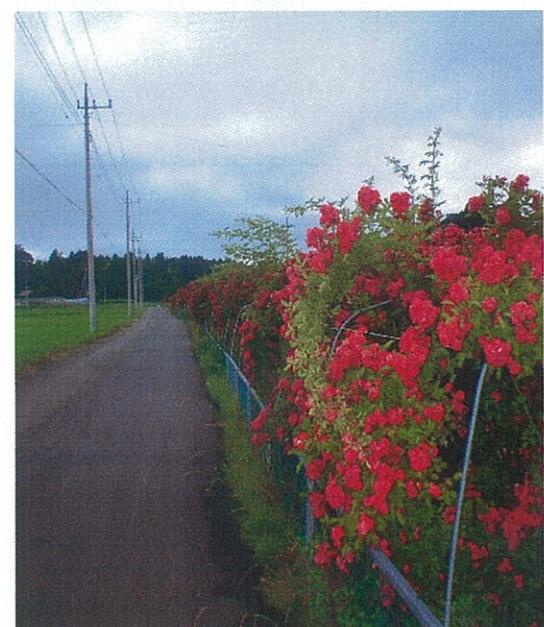
那須疏水幹線用水路と桜や新緑が美しい景観を織り成す中をウォーキング



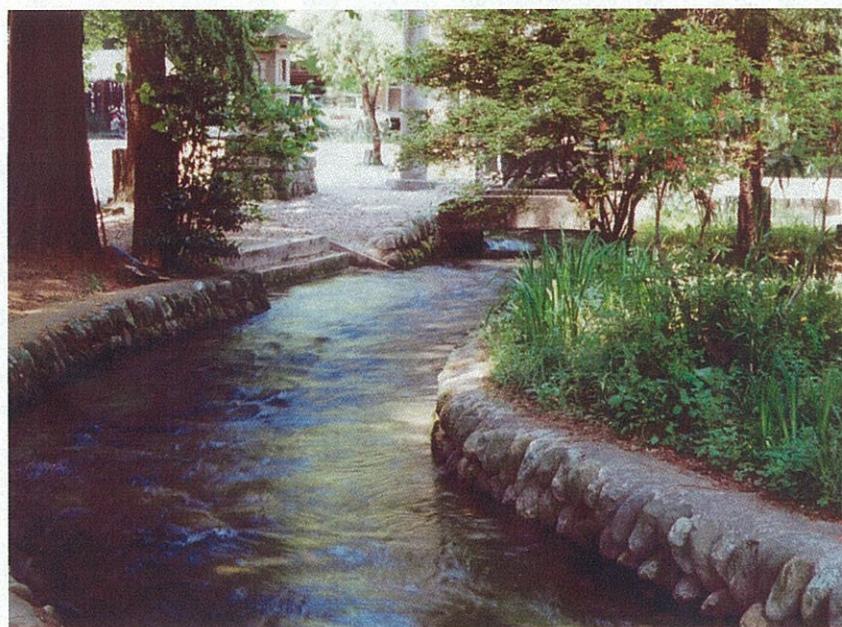
桜がきれいな那須疏水（西岩崎）



旧木ノ俣用水沿いのサルビア（戸田）



バラ街道として植栽された
那須疏水第一分水（羽田）



薹沼用水の石積み水路（石林：乃木神社境内）

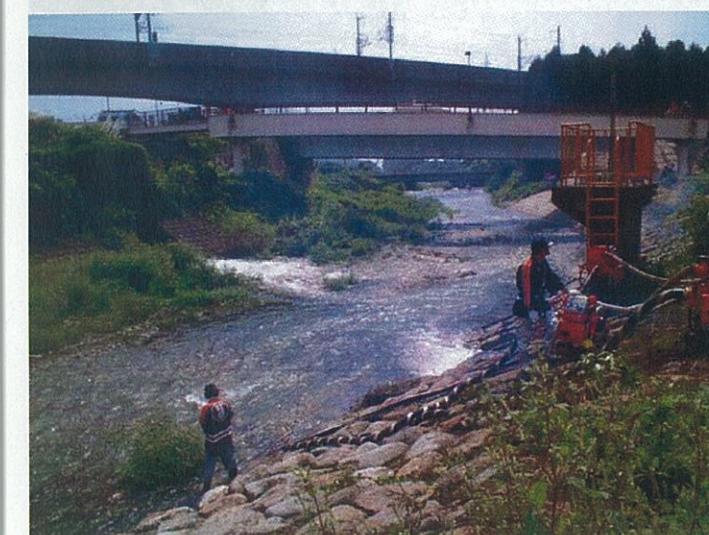


地域雨水排水を受入れる那須疏水幹線（平成10年） BS火災で熊川に消火用水を放流（箕輪放水工）



那須野ヶ原の農業用水
が消火活動に貢献

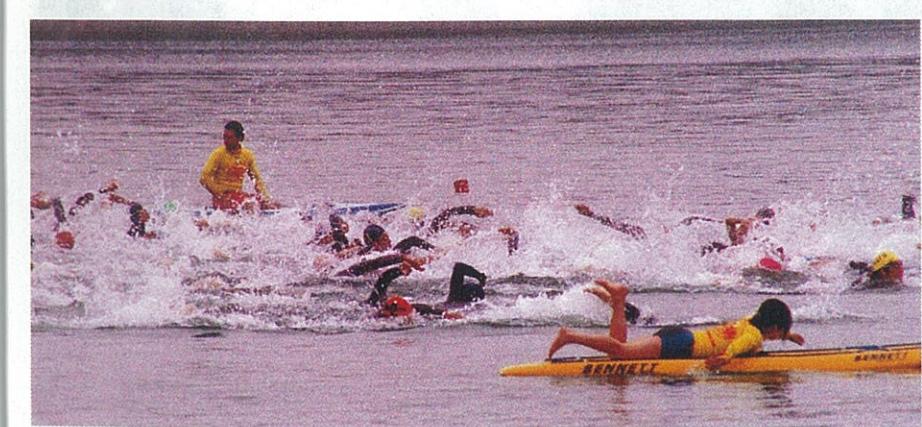
平成15年9月、防災ヘリにより、ブリヂストン栃木工場火災に利用される那須野ヶ原用水。



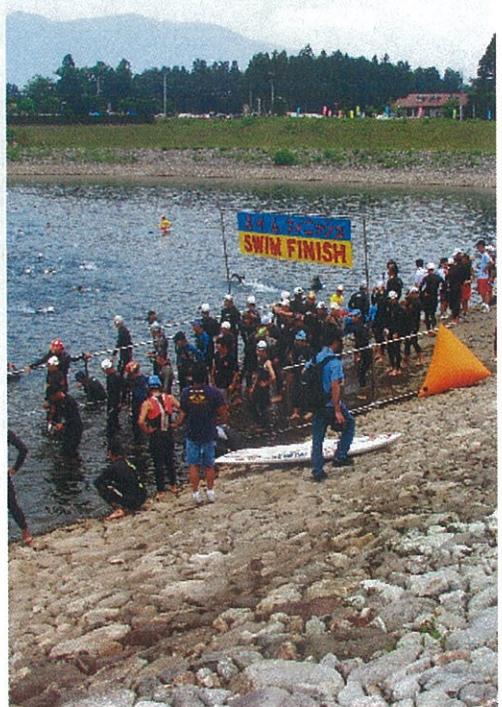
消火のため緊急放流された那須野ヶ原用水を
熊川から引き入れる（島方）



〈提供：黒磯那須消防本部〉



戸田調整池でのトライアスロン大会



日本学生トライアスロン選手権那須塩原大会のスイム、
ランの競技場として活用。

赤田調整池での「おおるり」による散水訓練



戸田調整池とともに防災ヘリの取水基地として登録されている。



運動公園に引かれた墓沼用水（高柳）



地元消防団による放水訓練



歩道として通学に利用される
縦堀用水路（二区町）

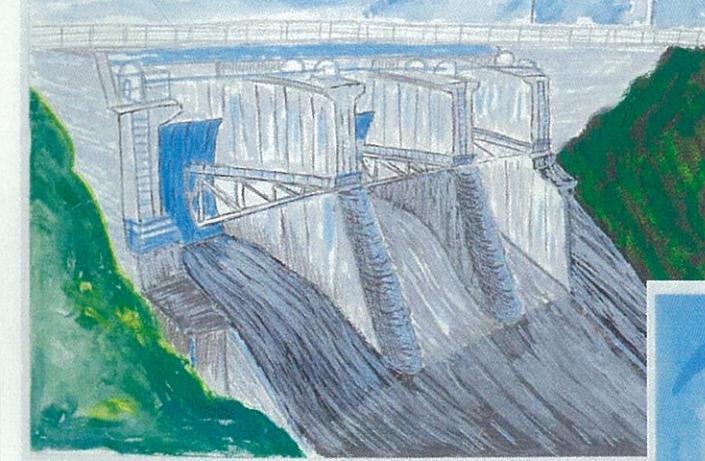
【那須野ヶ原用水を継承するための活動】

田んぼの学校活動支援

水の大切さと食育について、学びの場の提供。
那須塩原市三島、二区町、三区町、太夫塚、鍋掛の
5ヶ所に田んぼの学校開校。



深山ダム 大貫小学校：小宅 守 画



水の大切さを学ぶネイチャークラフトや
子ども達による施設のスケッチが行われる。

親子施設めぐり

毎年開催。
小学生の親子が、土地改良の関連施設や農
家を訪ねる。
(水管センター、西岩崎、深山ダムなど)



西岩崎頭首工 大貫小学校：木村 世界 画



水土里ネット那須野ヶ原企画展

毎年、那須野が原公園内にて企画展を開催。農業用水の機能や役割をより多くの人々に知ってもらう。



田んぼの生き物調査

水田の生物多様性について農家・地域住民・小学生・NPOなどと連携して調査し、環境に配慮した農業の必要性を理解する。



ホタル保存活動を支援（二区町）

小学生による観察会が行われている。



バイオマスの活用（メタン発酵消化液）

家畜糞尿を活用して、水質保全と健全な資源循環による営農活動を展開するため、調査及び実証試験を行っている。

（水稻、大豆、二条大麦、
菜種の栽培試験）



実証試験地に咲く菜の花（三区町）



農業用施設・農村地域の埋蔵エネルギーの活用の小水力発電所（百村）

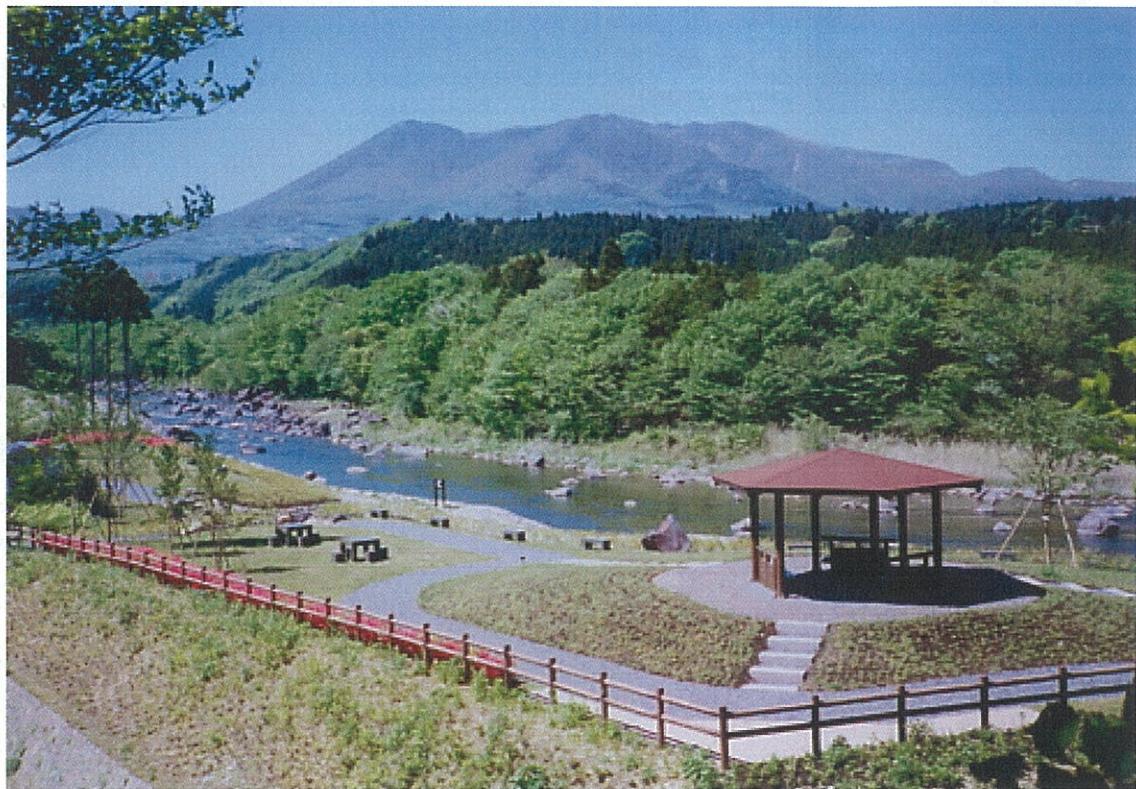
（エネルギーの地承地産活動）

農業用水路の遊休落差を活用した小水力発電などの実施及び検討を行っている。

GISの整備及び利用

農地流動化支援水利用調整事業の実施により、国営事業により整備された土地改良施設のデータ管理や、新しい技術を導入し、那須野ヶ原用水に係わる受益者に対する提供資料の高付加価値化を図っている。

地図データ、属性データの電子化に加えオルソ画像を活用。



那須疏水公園

[平成 13 年 5 月撮影]

◎表紙写真：東水門(第一次、第三次取入口)と現在の頭首工

那須疏水旧取水施設

—国重要文化財指定記念—

発行日 平成 18 年 (2006) 12 月 2 日

監修 磯 忍(北那須郷土史研究会会長)

編集 那須野ヶ原土地改良区連合

発行者 那須野ヶ原土地改良区連合

那須疏水土地改良区

329-2807

栃木県那須塩原市接骨木 447-8